

どんづまりから
見上げた空

2019/1/23
赤 俊哉

自己紹介



ホームレス寸前から、下請けプログラマー、SEとしてIT業界の最下層に入る。

ITカーストの悲哀を嫌というほど味わいながら、SIの立場で数々の悲惨なプロジェクト体験後、ユーザー企業（劇場）の情報システム部門に着任。

全社のシステム化を推進した後、業務現場にて営業・飲食事業・座席予約管理業務のマネージメント、BtoCビジネス等を担当。

現在は全社のIT戦略とともに、業務改革、データ経営の推進、データモデリング/プロセスモデリング等、業務管理全般に従事。

週末の楽しみは末っ子のましゅーとの散歩。

自己紹介（2）



著書に

『システム設計のセオリー』 『要件定義のセオリー』
（リックテレコム）、
『SE職場の真実』（日経BP）がある。



自己紹介（3）

併行して「ポップカルチャー×伝統芸能×パフォーマンス×IT」を融合した全く新しいショーを作り上げ、プロデューサーを務める。



本日はこれのお話



『SE職場の真実』
(日経BP)

最近アクセス急上昇中！

ただ、それでもなんとかしなくてはならない、という気持ちは持っていた。

ハローワークで胃が痛みだす

思い立ってある日、有給を使ってハローワークに行ってみた。人込みでむんむんする建物に入ると遠目にも壁にたくさんの求人票が貼り出されているのが見えた。見渡すと、年配の男性が大半を占めており、若者は少数だ。

求人票を目を皿のようにして見つめている人の群れをわけ分けて壁の近くまで近付き、他の人同様に求人票を舐めまわすように見た。求人票は職種ごとにまとめて貼ってあるようだ。初めに「コンピューター」関連の求人票が貼り出されている場所に行ってみた。

「SE・プログラマー」の求人はいくらでもあった。ところが、よく見てみると、私が勤務していた会社よりさらに規模が小さい会社が多かった。

二次派遣、三次派遣にうんざりして転職を考えているのに、現在のスキルで応募可能な仕事はさらに下の四次派遣、五次派遣をしているような会社の派遣SE・プログラマーの仕事ばかりだった。

1 2 3 4 5 次へ▶

あなたにお薦め

- 「自分のデータを消したくない」、ユーザーの意識変化に向き合う2019年のSNS事業者
- 「SEが足りなくなる！」、新聞記事に煽られて専門学校に通った話
- 4割の企業がRPAを導入、うち6割はトップダウンで
- Oracle 18c向けのDB操作/開発支援ソフト

総合ランキング (昨日)

- 「この電話は使われていません」、親身になってくれた友人がIT業界の間に消えた話
- 何問解ける？情報セキュリティの常識10選
- 第1世代から最新世代まで、インテルのマルチコアCPU早分かり
- Windows 10ではウイルス対策ソフトは不要か？
- 無線LANの電波利用状況を可視化、Wifi AnalyzerとWi-Fiミレルというアプリ
- 振り返ったAMD、意外な手で巻き返しを図るインテル
- 処理速度はSSDの10倍！ オールフラッシュの次に来る企業向けストレージを解説
- 何問解ける？情報セキュリティの時事ネタ10選
- 英語よりもずっと役に立つスキル
- 電話応対を効率化、Amazon Connectを独自して新システム

ホワイトペーパーランキング (昨日)

- 経産省が警告する「2025年の崖」とは何か？ 対策はレガシーからの脱却とDX実現
- 情報システム部門が主導するRPAプロジェクトが現場で炎上しがちな理由

↑

125%

こんな題名です！



The screenshot shows the NIKKEI XTECH ACTIVE website interface. At the top, there's a navigation bar with the site logo and various menu items like 'IT', '製造', and '建設'. Below that, a grid of categories is displayed, including 'ハイパーコンピュータド (HCT)', 'オールフラッシュストレージ', 'NAS', 'ファイル転送', and 'オンラインストレージ'. The main content area features an article with the title '「この電話は使われていません」、親身になってくれた友人がIT業界の間に消えた話' by 赤 俊哉 (せき としや), dated 2018/12/14. The article text includes the sentence: 「この電話は現在使われておりません」. To the right of the article, there's a sidebar with a table of contents and a promotional banner for HP laptops with the text '中小企業はデジタルで強くなる' and '洗練されたデザインでパフォーマンスの高いパソコンが人材確保の有効な手段'. At the bottom right, there's a section for '注目コンテンツ' (Featured Content) with a link to 'Webマーケティングで回らないPDCAサイクルの上手い回し方'.

最近も別エピソードがランキング1位に！



- 【総合ランキング---1月21日】

1位 「責任感がないのか」、転職直後に覚えた違和感と“銀の弾丸”に出会った話

<https://nkbp.jp/2SLAej5>

2位 2019年型PCはSSDに注目、QLC搭載機が話題に

<https://nkbp.jp/2FWPFmS>

3位 経営陣が合意する「100日プラン」作り、一つめのチェンジモンスターとの戦い

<https://nkbp.jp/2SQg4Vg>

4位 インテル第9世代やSnapdragon、最新CPUの特徴

<https://nkbp.jp/2FV2NIZ>

5位 無線LANの電波利用状況を可視化、Wifi AnalyzerとWi-Fiミレルというアプリ

<https://nkbp.jp/2CEFulF>

6位 文化を変える5つの柱(5) - - - 顧客目線をインストールする(上)

<https://nkbp.jp/2wlVanE>

目次はこんな感じ



目次

「責任感がないのか」、ユーザーに転職直後に覚えた違和感と“銀の弾丸”に出会った話

「責任感がないのか」。ユーザー企業に転職してシステム担当として初めてかかわったプロジェクトで感じたのは、上辺だけのやり取りでユーザーもベンダーも責任を果たそうとしない奇妙なほど滑稽な現場の姿だった。
(2019/1/11)

「この電話は使われていません」、親身になってくれた友人がIT業界の間に消えた話

「この電話は現在使われておりません」。いたたまれない気分で転職活動を続けた時、親身になってくれた彼にかけた電話から聞こえた最後のメッセージはこうだった。 (2018/12/14)

「SEが足りなくなる!」、新聞記事に煽られて専門学校に通った話

「SEがx万人不足!」。普段は読みもしない新聞をばらばらめくっていたところ、こんな見出しが目に入った。記事を読むと、今後数年間でSEが大量に不足すると書いてあった。「x万人」という数字は覚えていないが、その記事が私の人生を変えた。 (2018/7/4)

「自分のような者でも居場所があるかも」、IT業界を目指しドロップアウトから脱した話

二度の大病を経て、目の前に広がっているはずの道がふっと無くなった。大学には行かず就職もしなかった。新宿をさまよひ、キャンブルをし、時々アルバイトをした。転がるようにしてたどりついた派遣のSEやプログラマーの世界で、冷徹な現実と直面した。 (2018/5/23)

まうのか?

実はデメリットだらけ!? データ分析業務が“脱・Excel”すべき理由

【ITツール導入意識調査】企業が注目すべきIT投資とはなにか

グローバルレベルで社内外の情報共有を加速! Box活用で飛躍する住友商事

“クタクタな会議”はなぜ起こる? アクションにつなげる「会議×BI」の極意

Excel業務が生み出す「属人性」と「手間」を排除する最善解とは

FXはスピードが命! 最前線の金融サービスに学ぶレスポンス向上の極意とは

注目ホワイトペーパー

SMS、メール、LINEを活用し、グローバルで戦略的なメッセージ配信を実現する秘策

散在するデータを一元管理し、シャドウITを一掃するシンプルな方法

ネット障害の損失は年間77兆円! 迅速に復旧するために選ぶべきツールとは

経産省が警告する「2025年の崖」とは何か? 対策はレガシーからの脱却とDX実現



書面ではこんな感じになりました！



もカードローンで金を借りてパチスロに興じる人もいた。フリーター時代からギャンブルに手を出していた私もそんな環境に染まっていた。

パチスロあるいは競馬や競輪の記事が載っているスポーツ新聞を愛読している人が結構いた。私が結んでいた部屋のあちこちに無造作に置かれたスポーツ新聞を見て、当初は嫌な気持ちになったものだが、そのうちに自分でも当たり前のように手に取って目を通すようになっていた。

「顧客データのリストを持ち出せば…」という噂

こんなこともあった。
「本番で使っている顧客データのリストを持ち出せば60万円か70万円くらいで引き取ってくれる」という噂が職場で広まった。どこから発生した噂なのか定かではない。でも現実味を帯びた話として協力会社の間で広がっていった。



勤務先は生命保険会社の事務センターだったから、セキュリティは厳しく、出退勤のたびに受付で手荷物を検査されていた。それでもその気になればリストを持ち出すことは大して難しくなかっただろう。当時、はっきり言って金は欲しかった。心が働いた。しかし、さすがに法を犯すところまで落ちるわけにはいかない。なんとか踏みとどまった。

倍性の日々が続いた。さほど面白くないギャンブルに浸りながらも胸の辺りが痛くなった。心機一転、なんとか社会に出たのに、この体たらくは一体なんだろう。

「フリーターをして、時々ギャンブルをやっていた以前の生活と何が違うのか…」

なんとかしなければならぬ。でも、どうすればいいのか、そのときは分からなかった。

SE・プログラマから
見える世界

SE・プログラマから
見える世界

それでも…



今のIT業界には、まだまだ
「希望」がある！と思いたい！